

# 「感染管理センター」がオープンしました!

～感染対策、感染症診療についてのお困りごと、  
よろず相談うけたまわります!～

## 感染管理センターの設置

平成25年3月11日の新館(現在の北館)オープンとともに、新しい感染症棟の入口手前に「感染管理センター」が設置されました。オープン当初から感染制御チーム(Infection Control Team, ICT)の活動拠点でしたが、平成26年4月1日から、医療安全推進室と同様独立した一部門として昇格し、新たな活動を始めました。

## 感染管理センターを中心にした感染管理体制

図1のように、院長の指示のもと感染管理センターを中心に感染管理を行っています。センターでは種々の感染症・感染対策に関する情報を発信し、院内の職員に周知するとともに助言・指導・啓発を行います。感染対策事項に関する議決機関である感染防止委員会ではセンターで立案した対策を提案し決定します。

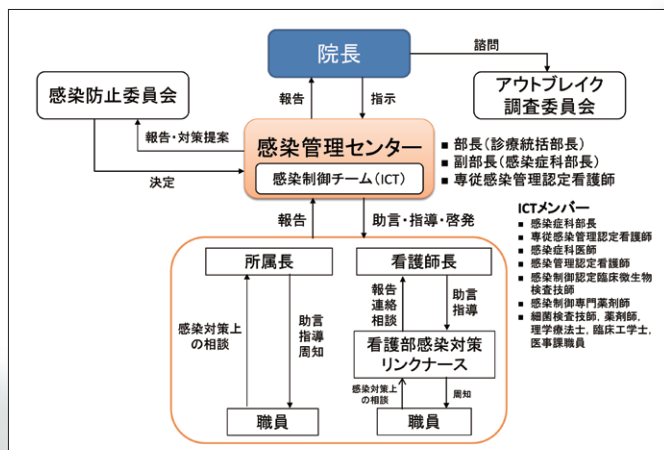


図1 京都市立病院 感染管理体制



図2 感染管理センターで活躍するICTメンバー

センター担当職員は、センター部長に統括診療部長、センター副部長に感染症科部長、さらに専従感染管理認定看護師が加わります。センターの活動の中心はICTメンバーで、感染症科医師、病棟看護師長、感染管理認定看護師、細菌検査技師、薬剤師、理学療法士、臨床工学士、医事課職員と、多職種が属します。細菌検査技師や薬剤師の一部も感染制御に関する専門資格を保有しています。

## 感染管理センターの業務

感染管理センターは、病院内のあらゆる感染症とその感染対策に関わる業務に携わっています。したがって、以下の様々な仕事を行っています。

- 病院で発症する感染症のサーベイランス
- 医療関連感染管理に関する教育、啓発、研修企画・運営
- 医療関連感染対策マニュアルの策定・改訂
- アウトブレイク発生時の調査と介入
- 感染対策・感染症診療のコンサルテーション
- 院内巡回による環境整備や感染対策の点検と助言
- 感染防止委員会、感染制御チーム(ICT)、感染症診療支援チーム、リンクナース会議の活動に関すること
- 職員の健康管理
- 中央材料室における洗浄・消毒・滅菌業務に関すること
- 清掃・洗濯・施設設備・給食などの感染防止対策
- 薬剤、医療物の選定
- 褥瘡対策委員会、NSTチームなどとの連携、各部門との連絡・調整

## 活動の実際

- **医師の活動**：検査技師、薬剤師、看護師とともに、毎週2回(火、金曜日)、午後から約3時間をかけ、血液培養陽性患者、指定抗菌薬(カルバペネム、バンコマイシンなど)使用患者、感染症科コンサルト患者など入院患者の診療支援ラウンドを行い、適正な感染症診断、抗菌薬適正使用を推進しています。また、若手医師向けに月2～3回感染症診療に関する勉強会を主催しています。
- **看護師の活動**：感染対策の遵守状況を毎日把握し、時に患者や家族と面談し感染対策の説明指導を行うことを基本に、職員の針刺し創傷・血液体液曝露対応、院内職員





図3 感染症診療支援ラウンド



図4 患者吐物の処理研修

への教育、ファシリティマネジメント(廃棄物処理、清掃、空調など)、各種サーベイランス(手術部位感染、血流感染、手指衛生、症状など)、感染対策コンサルテーションなど、専従職員として多岐にわたる活動に従事しています。

- 細菌検査技師の活動：検査室に提出された各種材料検体からの細菌、真菌などの同定を基本業務とし、血液培養陽性時や多剤耐性菌検出時には、ICTとして、担当医及びICTメンバーに迅速に報告し情報を共有します。院内で検出される主要細菌の抗菌薬感受性率表を年2回更新するとともに、感染防止委員会事務局として常に種々の資料を作成しています。
- 薬剤師の活動：バンコマイシン使用中の患者において、治療中の最低血中濃度を元に、今後の血中濃度シミュレーションを行い、適切なバンコマイシン投与計画を作成します。また、カルバペネム、第4世代セファロスポリン、バンコマイシンなど、院内で特に監視が必要な指定抗菌薬使用量を把握し、その動向を感染防止委員会で報告します。
- 他職種の活動：理学療法士・臨床工学士も各部署での標準予防策、感染経路別予防策の遵守徹底をはかり、事務係員は、他施設との地域連携カンファレンス開催の調整準備、他施設との連絡、廃棄物処理費用の算定、職員の研修会参加率向上などで力を奮っています。

## 他施設との地域連携

平成24年度から感染対策地域連携が始まり、施設連携に

より診療報酬上の加算が認められるようになりました。当院は加算1施設として、同じく加算1施設の京都医療センターと連携し、年に1度相互訪問し感染対策状況を評価し合います。また、周辺の加算2施設とも、年4回の合同カンファレンスを当院で開催し、情報共有並びに地域での感染対策の向上を目指しています。平成24年からの2年間は6施設と、平成26年からは8施設と連携しています。



図5 感染対策地域連携カンファレンス(左)／図6 細菌同定のための質量分析装置(右)

## 新しい機器の導入

平成26年4月から細菌検査室に新しい機器が導入されました。細菌や真菌の同定に用いる「質量分析装置」です。その原理は、田中耕一氏が受賞したノーベル化学賞の受賞理由です。これは、陽性化した血液培養の血液や、各種培養過程で増殖したコロニー(細菌集落)を材料として、菌を含む材料をイオン化し最終的に質量で分け、そのパターンを既知の細菌の質量分析パターンと比較して同じものを探す、という方法です。この機械が苦手とする細菌もありますが、とにかく細菌名を速く出すことができます。血液培養陽性例では数十分で同定可能です。また、今までなら同定に非常に時間がかかっていた稀な細菌の同定も可能です。この機器をフルに活用し、抗菌薬適正使用をさらに推進していきたい考えです。

## センターとしての今後の取組

毎年新しい職員が入ってくる中で、我々の感染対策・適切な感染症診療の徹底には終わりがありません。患者さんの診療ケアに関わるすべてのスタッフの、標準予防策・感染経路別予防策の遵守徹底、特に手洗い/手指衛生の遵守徹底の強化を図っていきたくと思っています。各種サーベイランスのさらなる充実、膨大な感染症・感染対策関連データのデータベース構築もこれから取り組んでいくべき課題と考えております。

地域の医療施設の皆様におかれましては、感染対策や感染症診療でのお困り事がございましたら、お気軽に京都市立病院感染管理センターまでご相談ください。今後ともよろしくお願いたします。